

横浜市版子育て世代包括支援センターの基本的な考え方 概要版

平成 31 年 3 月 横浜市こども青少年局

1. 横浜市版子育て世代包括支援センターの概要

本市では、区福祉保健センターにおける母子保健や福祉の一体的支援と、地域子育て支援拠点を中心とした地域の子育てに関わるネットワークの中で、“妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援”の充実を図ってきました。この度、子育ての不安感・負担感が高まりやすいとされる妊娠初期から出産後の支援を特に重視し、区福祉保健センターの福祉・保健の専門職による「専門的な知見」と、地域子育て支援拠点の「当事者目線」の両面から、妊娠期から子育て期の支援体制や機能をさらに充実させるものとして、「横浜市版子育て世代包括支援センター」を展開することとなりました。

こうした取組により、子育てに関する課題を、地域の様々な人や団体と共有し、個々の家庭の困難な状況に寄り添う支援を充実するとともに、全ての妊産婦や子育て家庭が地域で見守られ、安心して子どもを産み育てられる地域づくりを目指します。

(1) 実施体制

ア 区福祉保健センターと地域子育て支援拠点の連携・協働

本市においては、区福祉保健センターと地域子育て支援拠点の協働契約を基本に、両者の目的や情報の共有、事業の連携をすでに一体的・効果的に展開しています。「横浜市版子育て世代包括支援センター」では、この両者の連携・協働関係を基盤として、両者が強みを活かして、個々の妊産婦や子育て家庭を支援するとともに、各々のもつネットワークを強化することにより、地域全体で子育て家庭を支える環境づくりを目指します。

イ 妊娠期からの相談支援体制の強化（母子保健コーディネーターのモデル配置）

平成 29 年度より、区福祉保健センターに保健師・助産師等の看護職による母子保健コーディネーター（利用者支援事業母子保健型）をモデル配置し、これまで以上にきめ細かく妊婦と家族の実情を確認し、一人ひとりに寄り添った支援を行っています。

妊娠期から産後早期の時期を中心とした支援を拡充するとともに、妊産婦の実情やニーズを区と地域子育て支援拠点が共有し、横浜市版子育て世代包括支援センターとして、妊娠期から出産、子育て期にかけて切れ目のない支援を充実させていきます。

(2) 対象者

子育て世代包括支援センターは、妊娠・出産・子育てに関するリスクの有無に関わらず、予防的な視点を中心とし、すべての妊産婦、乳幼児とその養育者を対象とするポピュレーションアプローチ（※）を基本とします。

妊娠期から3歳児までの子育て期は、親子の愛着関係の形成や子どもの成長発達の基礎となる時期であると同時に、地域での繋がりの中で出産・子育てができる環境を整えることが重要です。また、乳幼児健診等の母子保健事業の中で全数を把握する機会があることから重点を置いて支援します。

※ ポピュレーションアプローチ：「集団全体への働きかけ」を指し、母子健康手帳交付時の看護職による全数面接や妊産婦健診、母子訪問員による新生児訪問、乳幼児健診などが該当します。妊娠後期に全数の妊婦へのお便りの送付もこれに該当します。一方、ハイリスクアプローチとは「リスクの高い方を対象とした働きかけ」を指し、妊娠経過の中で安全な妊娠の継続や出産が危ぶまれる妊婦への関わり、未熟児訪問、不適切な養育環境にある子育て家庭への関わり、乳幼児健診後の経過健診等が該当します。

2. 横浜市版子育て世代包括支援センターの目指す支援の姿（充実させていく支援）

ア 生まれる前の出会いの場と機会の充実

- 子どものいる世帯の減少や地域のつながりが希薄化する中、妊娠から産後の時期に不安を感じる人が多くなっています。赤ちゃんを迎えて生活を始めるこの時期は、子育て世代包括支援センターとして支援すべき重要な時期です。
- 母子健康手帳交付時面接やプレパパ・プレママ教室等の出会いの機会を十分に活用しながら、個々の子育て家庭の不安や悩み事に寄り添い、区と地域子育て支援拠点が強みを活かし、予防的な支援を充実させていきます。

イ 安心感につながる妊娠期からの関係づくり

- 地域にいつでも気軽に相談でき、解決方法や対応方法を一緒に考えてくれる人がいることが、妊産婦や子育て家庭にとって大きな安心感につながります。
- 妊娠期からの関係づくりが、その後の支援において重要な意味をもち、健やかなこどもの成長発達を支えることにつながります。区福祉保健センターと地域子育て支援拠点がそれぞれの場や機会を充実し、妊娠期から出産、子育て期にかけて、切れ目なくあたたかい関わりや関係づくりを大切にしていきます。

ウ 養育者自身が意思決定をする力の支援

- 子どもの世話をしたことがないまま親になる人も増えています。
- 区が専門的な知見からの相談支援を充実し、地域子育て支援拠点が養育者どうしの支え合いの機会を充実するなど、子どもの健やかな成長発達に向けて、養育者自身が見通しと安心感をもって、自ら意思決定をしていくことの支援を行っていきます。

エ 切れ目のない包括的な支援とネットワークづくり

- 区福祉保健センターと地域子育て支援拠点が連携しながら、関係機関と顔が見える日頃からのネットワークづくりを進めることで、より多面的・包括的な支援を行うことができます。
- 個々の支援がスムーズな連携により充実し、子育て家庭に切れ目のない支援として提供されるよう、区福祉保健センターは支援のために収集した情報を一元管理し、妊産婦や乳幼児の状況を包括的、継続的に把握するとともに、より効果的な支援プランの策定に役立てます。

オ 親子が温かく見守られる地域づくり

- 地域全体で子育て家庭を温かく見守り支えていくための市民の主体的な取組や、地域の中の多様な主体による協働の取組は、横浜の強みであり、今後ますます重要になっていきます。
- 区福祉保健センターと地域子育て支援拠点は、子育て世代包括支援センターの取組を地域づくりの視点をもって進めていきます。
- 地域子育て支援拠点のネットワークを活かして、妊産婦や子育て家庭と“地域とのつながり”をつくるほか、子育て世代包括支援センターの取組の中で把握した、子育て家庭の課題やニーズを、地域の様々な人や機関と共有し、地域全体を巻き込んで、解決に向けての協働の取組につなげていきます。

横浜市版子育て世代包括支援センター

目的

母子保健施策と子育て支援施策の一体的提供を通じて、妊産婦及び乳幼児の健康の保持及び増進に関する包括的な支援を行うことにより、横浜の強みを活かした妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を提供する体制を構築すること

区福祉保健センター

連携・協働

地域子育て支援拠点



- 母子保健分野の支援
- ※ 母子保健コーディネーターの配置による妊娠期の相談支援の強化
- 福祉・保健の一体的サービス提供
- 多職種の専門性を生かした組織的な支援
- 児童相談所と連携した一体的支援
- 医療、教育関連分野等、関係機関とのネットワーク
- 地域子育て支援



- 子育て家庭に近い市民の力による地域のニーズに即した活動の展開
- 多機能型の複数機能を連動させた幅広い支援
- ネットワークを活かした、きめ細かい支援と地域資源の開発

- ① 妊産婦等の支援に必要な実情の把握
- ② 妊娠・出産・育児の相談、必要な情報提供・助言・保健指導
- ③ 支援プランの策定
- ④ 保健医療又は福祉の関係機関との連絡調整
- ⑤ 地域づくり

妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援の提供

